

令和3年度 山梨県文学館協議会（会議録）

○令和2年度の山梨県文学館協議会は、新型コロナウイルス感染症が依然として高い水準で続いており、文学館もワクチン大規模接種センターの会場となっているような状況に鑑み、協議会委員に資料を送付して意見を伺うことで会議開催に替えることとした。

○委員

大塚茂、三澤真人、西田遙、中島利夫、杉原克彦、塩澤光正、藤原和昭、仲田道弘、長谷川千秋、廣瀬孝嘉、出澤忠利、秋山和江、河崎葵、石川等、小尾きよこ

○各委員からの意見等

- 1 令和3年度事業内容等について
- 2 令和4年度事業予定等について
- 3 その他

1 令和3年度事業内容等について

1-① コロナ禍にあり、大変な運営を強いられるなかでの努力に頭が下がります。

1-② 最近の児童の読書状況から、訴求という点で課題があるのではないか。

2 令和4年度事業予定等について

2-① 新型コロナウイルス感染症にかかわる先行きが不透明な中での館運営となるが、県民文化の発展向上に寄与することを念じている。

2-② 地域の書店と情報共有して連携していくことを考えてはいかがか。

2-③ 樋口一葉展を秋の旅行コンテンツとしてPRすればよいのではないか。

2-④ 過去に児童文学に関わる企画展・特設展に大勢の来館者が訪れている。権利関係や予算のこともあり難しい点もおおいかもしれないが検討してみてもいかがでしょうか。

3 その他

3-① 新型コロナウイルス感染症対策とは関係なく開催できるイベントは予算化しやすいのではないかと思う。1つ2つイベントを検討してみてもいかがでしょうか。

3-② 教科書掲載の文学教材や県内の小中学校の図書貸し出し状況を参考にしてアウトリーチ教材を開発すれば、子供達の興味関心をひくのではないか。

3-③ 作家の講演会などを企画したら良いのではないか。